令和６年度　授業改善推進プラン（全体計画）

多摩市立諏訪中学校

教育目標

東京都教育委員会及び多摩市教育委員会の教育目標を受け、また本校の実態を踏まえて学校の目標を次のように設定。

校訓　　未来を切り拓く諏訪中生

・意欲　　・共生　　・健康

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

(1)　メタ認知力を育成し、主体的に取り組む力を身に付けさせる。
(2)　「思考力・判断力・表現力」を身に付けさせる。
(3)　生徒自ら学ぶ意欲の定着を図る。
(4)　個別最適な学び・協働的な学びを行う。

諏訪中学校における「身に付けたい学力」のための具体的方策

○授業のねらいを明確にするとともに、ICT 等の利用によって振り返り活動を行う。
○課題解決の過程や結果の発表等の課題解決的な活動を積極的に設定する。
○全学年において、数学の少人数習熟度別指導、英語の少人数指導を行い個に応じた指導を行う。
○全教員体制による夏季補充学習会を実施し、基礎学力を向上させる。
○ESDの体験的な活動を通して、実践的な活動をする事により、自立した人間として生きて行くための力を育成する。
○ユネスコスクールの理念のもとにESDの視点に立った教育活動を推進する。
○地域未来塾・放課後学習会を実施する。学生等の外部人材を活用する。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	指導と評価	校内における研究や研修の工夫
・家庭学習に取り組ませるための授業と課題への工夫 ・少人数指導を活用し、基礎基本の定着を徹底する ・地域未来塾の推進（放課後） ・ICT 機器を活用した振り返り活動やアプリの活用によって ICT 機器の有効活用	・「学校評価」と「生徒による授業評価」の充実 ・週ごとの指導計画の記録の充実 ・適正な評価のための教員間の情報交流	・「不登校生徒に対する具体的な支援」についての研究と実践 ・ICT 機器を活用した授業実践の教員同士による情報交換

令和６年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　国語

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
【漢字】学年別漢字配当表に示された漢字を書くことができる。 【語彙】学年に応じて、理解したり表現したりするために必要な語句の量を増す。	【C 読むこと】文章の構成や論理の展開、表現の仕方について深く考えることができる。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・漢字の形を誤って覚えている生徒、ていねいに書く習慣がない生徒が多い。ア ・語彙が不足している生徒が多いが、たとえ正しい表現でなくとも伝えることに抵抗はない生徒が多い。文章を書くことに苦手意識をもつ生徒が多い。	・漢字の学習では、小テストを定期的に行い、間違いの多かったものはその都度取り上げ、正しい形を認識させる。 ・単元ごとに、振り返りを書かせ、正しい文章で表現する練習をさせる。	・１１月以降随時	
第２学年	・漢字の構成を理解して覚えている生徒の割合は低い。また、時間をおいて出題した際にも変わらず「努力を要する」生徒が多い。ア ・語彙が不足している生徒が多い。そのため、自分の考えを文章にして伝えることに困難さを感じている生徒も多い。イ	・漢字の学習では、部首などの漢字の構成にも触れ、覚える際の一助とする。ア ・まずは体裁を気にせずに思ったことや感じたことなどを書く練習をさせる。そのうえで適切な表現を調べるなどしてよりよい文を考えさせる。イ	・11 月以降随時	
第３学年	・小テストは「概ね満足できる」生徒の割合は多い。しかし、覚える際に誤った状態で記憶している現状が一定数見受けられる。ア ・因果関係と相関関係を理解しながら論を展開させることに困難さを感じている生徒が多い。	・出題範囲の間違えやすい漢字を予め生徒に提示し、覚え間違いを防止する。ア ・根拠を考える場面では、情報の関係性について注意させる。複数事例を交えながら生徒には伝え、考えさせる一助とする。イ	・11 月以降随時	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

【全学年】
- 生徒の考えをロイロノートに提出させ、回答を共有することで互いにアドバイスをし合うなど協力できる場を設ける。**【協働】**
- 作文等の途中経過を撮影させ、ロイロノート上で提出させる。作品完成前に適切な指導を行い、改めて生徒に適切な表現を考えさせる。**【個別】**

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

【全学年】
- 学習の始めには単元の目標の提示とともに、年間や今後の学習への結びつきについて押さえながら伝え、学習の関連性を意識させる。
- 学習の最後にロイロノートを用いた振り返りアンケートを行い、生徒自身の学びと成長を実感させる。また、振り返りアンケートの集計結果は、教員の授業を改善する一助とする。

令和６年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　社会

社会科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
資料や地図・グラフなどから様々な情報を読み取ったり、図表などにまとめたり、説明したりすることができる。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、表現することができる。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・グラフや地図などの資料から必要な情報を読み取り、特色や課題を把握することを苦手とする生徒がいる。 ア ・定期考査や課題で、社会的事象について説明や記述する設問の正答率があった。 イ	・グラフや地図などの資料から、着目するポイントを明確にする学習課題を設定する。 ア ・社会的事象についての様々な考えや意見を知り、自分の考えをまとめたり表現したりする活動を行う。 イ	・１２月～２月の授業で読み取り時に行う。 ・１２月～２月の授業で週１回程度行う。	
第２学年	・グラフや地図などの資料から必要な情報を読み取り、特色や課題を把握することを苦手とする生徒がいる。 ア ・定期考査や課題で、社会的事象について説明する設問の正答率に課題があった。 イ	・グラフや地図などの資料から、着目するポイントを明確にする学習課題を設定する。 ア ・社会的事象についての様々な考えや意見を知り、自分の考えをまとめたり表現したりする活動を行う。 イ	・１２月～２月の授業で資料の読み取り時に行う。 ・１２月～２月の授業で週１回程度行う。	
第３学年	・複数の資料を活用して課題や特色を把握することを苦手とする生徒がいる。 ア ・定期考査で、社会的事象について説明する設問の正答率に課題があった。 イ	・グラフ・図表・統計資料などを用いて、特色や仕組みを把握する学習課題を設定する。 ア ・社会的事象についての様々な考えや意見を知り、自分の考えをまとめたり表現したりする活動を行う。定期考査の振り返り学習を行う。 イ	・１２月～２月の授業で適宜行う。 ・１２月～２月の授業で週１回程度行う。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

１年　学級内および小集団でタブレットを活用した意見交換を行う。
２年　学級内および小集団でタブレットを活用した意見交換を行う。
３年　学級内および小集団でタブレットを活用した資料収集や意見交換を行う。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

１年　授業の振り返りを行うプリントの記入と次時の課題の提示を行う。
２年　授業の振り返りを行うプリントの記入と次時の課題の提示を行う。
３年　授業の振り返りを行うプリントの記入と次時の課題の提示を行う。

令和６年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　**数学**

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
数量や図形などの基礎的概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付けるようにする。	数学を活用し事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・基礎クラスの生徒は、小学校の内容を含め基本的な計算が出来なかったり・時間がかかる生徒が多い。 ア ・文章の読み取りに課題があり、文章から得られる情報を正しく整理・表現できない。 イ	・基礎クラスの授業の中で、既習事項の振り返りを積極的に行う。また、定期的に単元テストを行い、今まで学んできた計算に触れる機会を多く設ける。 ア ・文章から得られる情報を表や図に整理し、視覚的に把握できるようにし、それを他者と共有する（ＩＣＴ）時間を設ける。 イ	・４月～ ・６月～	
第２学年	・基礎クラス生徒は、既習事項の定着ができていない分野が多く、単元ごとに細かい振り返りが必要である。 ア ・文章の読解力が低く、条件をうまく整理して考察できない生徒が多い。 イ	・基礎クラスの生徒は、定期的に１学年の内容を復習する時間を設けて、基本的な内容の復習や計算能力の向上を図る。 ア ・図形・文章題・証明問題では、ICT を利用して、立式の手順や条件等を整理して視覚的に理解させる。 イ	・４月～ ・４月～	
第３学年	・基礎クラス生徒は、既習事項の定着ができていない分野が多く、単元ごとに細かい振り返りが必要。 ア ・文章の読解力が低く、条件をうまく整理して考察できない生徒が多い。 イ	・基礎クラスの生徒は、定期的にプリントや ICT を活用して復習の時間を設け、基本的な内容の復習や計算能力の向上を図る。 ア ・図形・文章題・証明問題では、ICT を利用して、立式の手順や条件等を整理して視覚的に理解させる。 イ	・４月～ ・９月～	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

全学年共通　タブレット端末を活用した多様な意見や考えの共有
グループワークを通して教え合いを行い、ＩＣＴを活用して他の人の考えを共有する場を設ける。**【重点：協働】**

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

全学年共通　本時の要点の振り返り，該当部分のワークシートによる演習
授業後に授業で行った内容やポイントをまとめるワークシートの作成。
授業開始時に今まで学んだ内容の復習小テストを行う。

令和６年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　理科

理科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
知的好奇心や探究心をもって，自然に親しみ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を「授業における具体的な手だて」に示すとおり育成することを目指す。	学年や発達の段階，指導内容に応じて，観察・実験の結果を整理し考察する学習活動，科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動，探究的な学習活動が充実するように改善する。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・興味・関心が高く主体的・意欲的に取り組める生徒が多い一方、小学校での実験の基本操作の経験が少なく、スムーズに実験が行えない。ア ・小学校段階での実験の経験が少なく、結果を考察したり説明したりすることが苦手である。イ	・生徒一人一人の実験の機会を増やすとともに、各自に一つ一つの手順を段階的に行わせるようにする。言葉だけでなくＩＣＴを活用して視覚的な理解を促してから取り組むようにする。ア ・結果の確認から考察までを数段階に分け、話し合い活動と解説を交互に行い、考察や説明ができるようにしていく。イ	１学期より継続中	
第２学年	・知的好奇心や探究心が乏しく、淡々と授業内容に取り組む生徒が多い。ア ・結果を考察したり説明したりすることが苦手である。イ	・興味・関心が高める話題提供や、授業プリントの作成を行う。ア ・話し合いの場面を多くし、協力して考察することによって視野を広げ、考察や説明の技能を高めさせる。イ	１学期より継続中	
第３学年	・興味をもって意欲的に学習に取り組むことができているが、もっている知識を互いに結び付けて考えることが苦手な生徒が多い。ア ・重点に挙げたそれぞれの学習活動が、概ね十分に取り組めている。イ	・過去に学習した内容を復習し、関連を明確にする。身近な事象との関連や他の単元や教科との結び付きを紹介する場面を取り入れ知識に幅をもたせる。ア ・より高い段階を目指し、授業プリントで個々に考察 ・探究する場面や、お互いに意見交換する場面を多くし、その内容を評価しフィードバックしていく。イ	１学期より継続中	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等ＩＣＴの効果的な活用について

・タブレット端末を活用し、班単位の話し合い活動の際、言葉で説明しにくいものを図で表現したり、資料を検索して示したりする。また、グループ内で情報共有や意見交換を行う。**【重点：協働】**

・一人一人が筆記用具のように自らの学習道具として有効に活用できるように、様々な使用方法（計算の確認、板書を撮影して拡大、実験器具の使い方の確認、温度や電流・電圧などを撮影して細かく読み取るなど）で使用させる。**【重点：個別】**

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

授業前半で本時の目標を明確にするとともに今後の流れも伝えておく。授業終わりにも時事の内容と今後の流れの再確認を行う。「トライ」「リトライ」（単元の導入と単元末で同じ問いについて考え、自己の成長を実感させる）に取り組む、未知の事象について考えるなどに、班単位で、自分で考え、自分の考えを伝え、話し合って意見をまとめるなど、様々な「主体的・対話的で深い学び」の活動に取り組ませる。

令和６年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　**音　楽**

音楽科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
【表現】歌唱表現や器楽演奏に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら演奏表現を創意工夫すること。	【鑑賞】鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりを自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・「音楽を聴く」自体を好きな生徒が多いが、基本的な記号の読み方や意味などを小学校の時に習得できていない生徒がいる。ア ・「魔王」など、特徴的な曲を聴くことはできるが、それを文章化し、説明することを苦手とする生徒がいる。イ	・班やパートでの班活動や少人数での話し合い活動を通し、お互いに学び合い、相手の良さや自分の良さに気付かせる。ア ・曲の特徴を捉え、曲を聴き、登場人物がどのような様子だったのかを考え、発表する。イ	・２学期(９月以降) ・７月以降	
第２学年	・基本的な音楽記号などの習得はできているが、それを効果的に用いて(表現すること)は苦手な生徒がいる。ア ・鑑賞曲を通して、様々な楽器があることは学んだが、どんな特徴があり、どのような場面で使用するのかは理解できていない。イ	・「楽譜の中のリズム」を早く見付けること。それによって、どう演奏し、表現をすれば良いのか考えさせ、検証させる。ア ・オーケストラの曲を聴き、どんな楽器が演奏しているのか、その楽器によってどんな効果があるのかを考えさせ、意見交換させる。イ	・年間を通して行う ・７月以降	
第３学年	・曲を聴いて想像したものをどう言葉にすればよいか、また歌詞理解において、どう表現すればよいか悩む生徒が多い。ア ・鑑賞曲を通し、その曲の雰囲気を感じ取り、言葉にすることが苦手な生徒がいる。イ	・自分のパートの音や歌詞を通してのイメージを毎回の練習の中で意見交換をさせ、気づかせる。ア ・曲を聴き、そのイメージを発表させる。イ	・年間を通して行う ・９月以降	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

・各学年、パート練習の振り返りや自分のお気に入りの曲を ICT 機器で共有し、発表し合う。

・パート練習の中でお互いに学び合い、話し合い活動を通して共通理解をする。【説明５分→パート練習３５分→話し合い１０分(次回へ向けての課題)】**【重点：協働】**

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

1年：発表活動を通して、お互いの良さに気付き、音楽に対する理解を深める。

2年：楽譜を見て、また話し合い活動を通して、曲理解、パート練習や全体練習で確認した部分を楽譜に「書きこむ」ことを通して作詞・作曲者の思いを考えさせる。

3年：パート練習を通して作詞・作曲者の意図を考え、発表し、お互いを認め合い主体的に考えさせる。

令和６年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　美術

美術科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに,表現の方法を創意工夫し,造形的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ,表現の意図と工夫,美術の働きなどについて考え,主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり,美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・理解力・定着力に時間がかかるので,基礎技能を繰り返していく必要がある。☑ ・作品鑑賞は,描かれているものをたんに単語で答えるが,詳しい事柄・情景などを捉えられない。☑	・短時間の説明・実践,を繰り返すスモールステップ方式で進めていくようにする。☑ ・生徒同士の対話の時間を増やし, ICT を活用しながら視覚的に捉えつつ,言葉を引き出していく。☑	・各単元 ・各単元	
第２学年	・基礎技能の理解度は上がったが,自分の行いたい制作への応用力が足りない。☑ ・鑑賞の観察力はついてきたが,的確な言語表現に結びつけるのが難しい。☑	・個別指導時に,制作方法をいくつか目の前で実践することで自分に合ったものを行わせていく。☑ ・対話では細かな問答を行い,発言者のみならず,全体への問いかけから,よりよい言語表現へと繋げていく。☑	・各単元 ・各単元	
第３学年	・制作時の表現方法への模索が見られる一方で,実践的な技術力が少々足りない。☑ ・発想段階での完成を予想しての構想を練ることが足りない様子が若干みられる。☑	・個別指導時に個々の技量にあった方法を提示し,彼らの目指す制作に近づけさせる。☑ ・参考になるような制作過程を ICT・資料集等を提示することでより完成を想像させるようにする。☑	・各単元 ・各単元	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

・鑑賞では,作品を細部まで見ることや意見の共有などに活用。
・アイディアスケッチを行うときは,個々の発想のヒントにつながるようインターネットを活用。
・教科書の QR コードや手元を写した動画を活用し,技能面の補足を行う。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

・個人の振り返りシートの活用。単元ごとに単元全体の目標や全体の見通し,また毎時間の予定と次へつなげる振り返りを確認。
・単元プリント配布と黒板に学期のおおよその予定提示。単元プリントは,単元の目的や制作過程,気を付けたいことを提示し,各々の時間配分で制作できるようにする。

令和６年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　保健体育

保健体育科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
㋐　知識及び技能	㋑　思考力、判断力、表現力等
体力の向上を目指した取り組みを重視し、基礎体力を向上させることで、様々な競技の技能向上を目指す。	自身の技能の向上のために必要な課題を理解し、改善する力をつけ、その後は仲間の能力などを見極め、それに応じたアドバイスや練習計画を立てて実践する力を３年間かけて育成する。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・授業規律の確立がやっと整ってきたところである。これから誰とでも協力して取り組んだり、互いを高めあったりする授業の基礎を作っていく段階にある。 ・筋力や持久力等は、まだ低い傾向にある。	・どの競技においても、互いに協力して取り組むことや課題解決法を考えながら取り組むことをねらいとして明確にし、それに則った授業を展開する。㋑ ・ウォーミングアップ段階でのランニングや補強運動を全力で取り組ませる。㋐	年間を通じて	
第２学年	・大半の生徒が意欲的に授業に参加できている。男女共習の場面においても、協力して課題に取り組む姿勢が見られる。 集団競技で個人の能力差がある中での課題の達成が課題になる。	・どの競技においても、常に個人・集団にそれぞれ課題をもたせて取り組めるようにする。その取り組みの中で、互いに教え合い等が行えるよう工夫していく。 ・ランニング、補強運動は毎時間継続していく。	年間を通じて	
第３学年	・多くの生徒が一生懸命授業に参加している。教え合いなども活発に行えているが、技能に大きな差ができつつあるため、ゲームなどになった時に、みんなが達成感を得られることが難しい時がある。	・どの競技においても、互いの技能を見て、それに応じた教え合いをしたり、チームで練習計画を立てて実践したりする時間をできるだけ増やす。㋑	年間を通じて	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
・手本動画と自己の実践動画を比較し、自己の課題改善につなげる。 ・チーム競技では、それぞれが課題を持ち寄り、それを改善するための練習計画等をたてる。	・新たな単元に入る際に、授業計画とねらいを明確に生徒に伝える。また、授業ごとの成果と課題を振り返りカードを使い、簡潔にふりかえさせることで、次回の目標をしっかりと持てるようにする。

令和６年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　技術分野

技術科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
社会や環境に関わる技術について、基礎的な知識と技能を習得する。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決する力を養う。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・生活に関わる技術について、聞いたり、使ったりする経験の差により、生活に関わる技術について知識及び技能を正確に習得していない面が見受けられる。ア ・よりよい生活を送るため、現状の問題を見いだす力・工夫する力に課題がある。イ	・ＩＣＴ機器を活用して基礎的な知識を復習することで、習得に結び付けていく。技能に関しては、道具の使い方に時間をかけて、習得できるようにする。ア ・作業工程の中で、生活に関わる学習課題を設定し、考えさせる機会を増やす。また、作業効率を上げられる工夫を考えさせる。イ	９月～３月 ６月～８月、３月	
第２学年	・基礎的な知識及び技能は身に付いてきているが個々の差が見受けられる。ア ・生活体験の違いから問題発見に差が見受けられ、解決方法を見いだすのに時間がかかる。イ	・机間指導の中で、個々の技能の課題を伝えて練習をさせて習得できるようにする。ア ・授業の中で問題の提示や課題を出し、生徒に考えさせる機会を増やす。また、考えたことを発表する機会を増やしていく。イ	６月～３月 ４月～３月	
第３学年	・基礎的な知識、技能は身に付いているが、発展的な内容の理解や技能に差がある。ア ・問題が理解できると解決に向けて取り組むことができるが、問題発見や解決のための工夫に時間がかかる。イ	・授業の中で、基礎的な内容を再確認することで、発展的な内容に結び付けていく。また、ＩＣＴ機器を活用して振り返りができるようにする。ア ・授業の中で様々な場面を想定し、学習課題を設定することで生徒に考えさせる機会を増やす。イ	４月～２月 ４月～２月	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

１年　学習内容の振り返りや作品の発表活動で活用する。**【重点：個別】**
２年　情報の基本操作の定着・レポートの制作、発表活動で活用する。**【重点：個別】**
３年　学習内容の振り返りやプログラミングの制作、発表活動で活用する。
【重点：個別・協働】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

１年　製作説明書で、作業の進捗状況を確認する。
２年　作業計画表で、作業の進捗状況を確認する。
３年　作業計画表で、作業の進捗状況を確認する。

令和６年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　家庭分野

家庭科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力など
生活や技術に関する知識を高め、技能の習熟・定着を図る。	生活や社会の中から問題を見出し、課題を設定し、解決策の検討、実践、評価、改善といった活動を通し、課題を解決する力を養う。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・家庭内での生活体験が少ない生徒が多い。ア ・快適な生活を送るために、家庭と社会で行われている仕事に関心がない生徒が多い。イ	・調理、住居の実習を行い、生活体験の機会を作る。 ・実際の食品パッケージなどを使い、授業と実生活を結びつける。 ・タブレットを用い多くの家の間取り図を比較することで、住居に取り入れられている工夫などを理解する。	1～3 月 9～12 月	
第２学年	・針に糸を通すなど、細かい作業が苦手な生徒が多くみられる。ア ・様々な情報から得た知識が生活と結びついていない生徒が多い。イ	・道具を活用して、時間の短縮を図る。 ・消費者問題や環境問題を調べ、今自分達がなすべき行動を話し合い発表する。	9～12 月 1～3 月	
第３学年	・幼児とのふれあい体験が乏しく、幼児の心身の特徴が理解できていない。ア ・自分と、家族・家庭と地域のつながりについて関心を持っている生徒が少ない。イ	・視聴覚教材や友人との会話を通し、自分が幼かった頃を振り返り、幼児の様子を理解する。 ・幼児向け紙芝居制作で幼児の理解に努める。 ・視聴覚教材等を使い、家庭の役割を理解する。	9～12 月 1～3 月	

■「個別的な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末など ITC の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫など、「学びに向かう力」の育成に向けた取り組みについて
１年　端末を使い、食品に含まれる栄養素などを調べ発表する。 ２年　部分縫いなどを端末にあげておき随時見られるようにする。 ３年　幼児向けの衣料やおもちゃなどを検索し、幼児の理解に努める。	１年　その日に学んだことと実生活のつながりを確認していく。 ２年　振り返りシートを用い、自分の作業の進捗状況を確認していく。 ３年　振り返りシートを用い、自分の作業の進捗状況を確認していく。

令和６年度　多摩市立諏訪中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　英語

英語科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
・相手とやりとりをする場面において、必要な語彙・表現・言語の動きなどを理解し、適切に活用する力を身に付けている。	・自分で読み取ったり聞き取ったりした情報について、情報や考えを理解し、お互いに伝え合うことができる。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・主語に応じて動詞の形を変えることが理解できていても、いざやりとりをする場面になると、動詞の形を間違えてしまう生徒が多い。ア ・質問を理解し返答できているが、一言で返す生徒が多い。イ	・一度扱った文法事項であっても、繰り返し扱い生徒に練習させる。ア ・ペアワークを通してどんな意見や表現ができるか意見を共有させ、２文以上で答えられるよう繰り返し練習していく。イ	・毎回の授業で宿題を出し、その成果を定期テストで確認する。	
第２学年	・単語テストの正答率は高いが、文で表現することが苦手とする生徒が多い。ア ・ある程度音声で自分の考えを伝えることができるが、文字にするときに困難さを感じる生徒が多い。イ	・自分の意見を発表する場を授業中に設ける。その中で生徒が間違えた表現については教師が言い直す等して正しい表現に気付かせる。ア ・授業で口頭練習した表現については必ず生徒に書いて練習するよう指導する。イ	・授業で練習したことを定期テストに出題する。また、パフォーマンステストを実施し、生徒に定着しているかどうか定期的に確認する。	
第３学年	・英語でのやり取りや英作文等で考えを伝えることに積極的に取り組んでいるが、必要な基本的な語彙や文が十分に身に付いていない。ア ・制限時間内に長文を読み、内容を正確に理解することに苦手意識をもっている生徒がいる。イ	・学習の区切りごとに小テストを行い、語彙力や文を書く力を付けさせる。ア ・様々な文を読む練習をするとともに、長文を読む際に WPM(ワードパワーミニッツ…１分間に読み進められる単語の数)を測り、理解のスピードを意識しながら読む機会を作り指導する。イ	・定期的に小テストを行う。 ・授業内や宿題として多くの長文に取り組ませる。	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

「話すこと［発表］」の力を量るパフォーマンステストでは、原稿作成や発表の視覚的補助資料作成の際にタブレット端末を活用させ、より魅力的な発表ができるよう支援する。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

授業が終わった後に口頭練習したことについて生徒に書かせる。それによってその日の学びを振り返らせる。